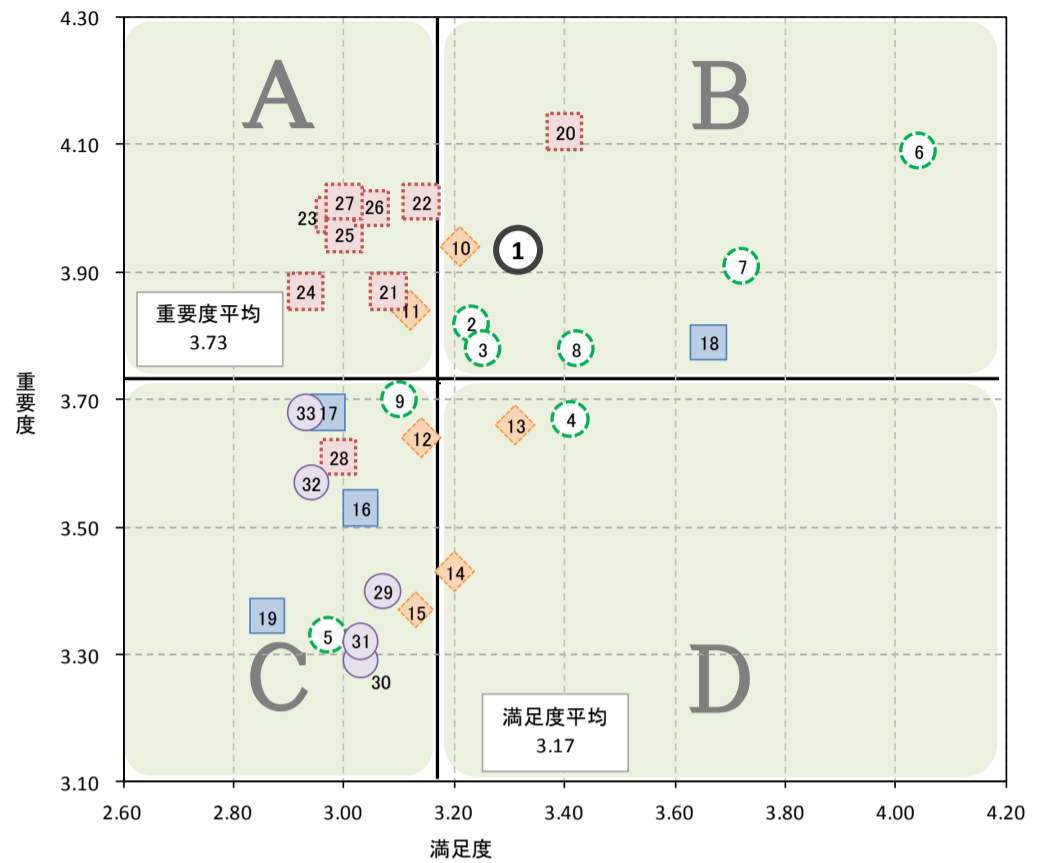


基本施策 (大施策)	11 市街地・住環境
---------------	------------

施策責任者	都市整備部長
とりまとめ課	まちづくり推進課

市政に対する 市民の評価	重要度・満足度の評価項目			
	1	良好な市街地や住環境の整備		
	区分	24年度	26年度	
	重要度	ポイント	3.89	3.93
		平均	3.71	3.73
	順位	9 / 33	9 / 33	
満足度	ポイント	3.30	3.32	
	平均	3.15	3.17	
	順位	8 / 33	7 / 33	



めざす姿 (生活像)	まちの 状態	都市環境と自然環境が調和した、魅力ある住みよいまちになっています。 地域の特性や規模に見合った都市機能が集積しています。
	市民の 暮らし	誰もが不安なく快適に生活しています。 自分たちのまちをより良くしようと、自分たちで考え、活動しています。

	指標名称	単位	実績値			目標値	
			24年度	25年度	26年度	27年度	32年度
目標指標 (大施策 レベル) の 達成状況	まちづくりに関するワークショップ実施数	か所	6	6	7	7	8
	※指標の補足説明、指標達成による効果(=「めざす姿」との関係性)などを記載。						
	市街化区域D D地区の人口密度	人/ha	56.5 (17年度)	57.9 (22年度)	—	58.3	59.1
			6	6	7	7	8
成果指標	刈谷駅周辺が活気や魅力があると思う市民の割合	%	49.3 (22年度)	58.6	—	55.0	65.0
	快適で便利な住環境が整備されていると思う市民の割合	%	74.7 (22年度)	78.5	—	77.0	80.0

平成27年度 刈谷市小施策評価シート（案）

施策の内容 (小施策)	111 計画的な土地利用	
小施策 の項目	①	刈谷駅周辺は、賑わいあふれる都市の中心拠点として、土地の高度・有効利用を誘導します。他の交通結節点を中心とする地域は、日常生活に必要な機能の集約を図ります。
	②	新たな土地利用の実現にあたっては、市民のまちづくり意識の醸成や合意形成の促進に向けた自主的な取組みを支援します。
	③	市内への定住の促進や人口増加に対応した居住機能を確保するため、既存インフラの有効活用と交通利便性の高い地区に、新たな住宅地を創出します。
	④	本市の特長であるものづくりを支えるため、広域交通体系へのアクセス利便性の高い地区に、新たな工業地を創出します。
	⑤	地域の特性や日常生活の利便向上の観点から、都市の再生や土地利用を誘導する用途地域の見直しに努めます。

小施策責任者	都市整備部長
とりまとめ課	まちづくり推進課
①担当課	まちづくり推進課
②担当課	まちづくり推進課
③担当課	まちづくり推進課 企画政策課
④担当課	まちづくり推進課 企画政策課
⑤担当課	まちづくり推進課

	指標名称	単位	実績値			目標値	
			24年度	25年度	26年度	27年度	32年度
追加指標 (小施策 レベル)	活動指標						
	成果指標						

平成27年度 刈谷市小施策評価シート（案）

●小施策を構成する事務事業

事業No.	事務事業名		投入コスト（単位：千円）			事務事業評価（26年度決算）					予算対応の考え方	担当課	
			25年度 (上)予算 (下)決算	26年度 (上)予算 (下)決算	27年度 予算	必要性	効率性	妥当性	貢献度	方向性			
1	①②⑤	南桜町地区優良建築物等整備事業	P0	78,504	149,032								
2	①②⑤	市街地整備促進事業	P0	5,136	—								
3	①②⑤	銀座A B地区整備事業	P0	—	108,367								
4	①②⑤	東陽町地区優良建築物等整備事業	P0	—	17,032								
5	①②⑤	都市再生整備計画検討調査事業	P0	3,564	—								
6	②③④	拡大市街地整備事業	P0	11,199	16,529								
7	①③④⑤	都市計画基礎調査事業	P0	4,012	3,208								
8			P0										
9			P0										
10			P0										
構成事務事業数		7	投入コスト合計										

《予算対応の考え方》

方向性	拡充		⑤	②	①
	現状維持		⑥	③	
	改善・効率化		⑦	④	
	縮小		⑧		
	終期設定		⑨		
	休止・廃止	⑩			
		無	縮小	維持	拡充
		予算対応の考え方			

平成27年度 刈谷市小施策評価シート（案）

●各事務事業に設定された指標

事業 No.	指標名称		単位	実績値			目標値	
				24年度	25年度	26年度	27年度	32年度
1	活動指標							
	成果指標							
2	活動指標							
	成果指標							
3	活動指標							
	成果指標							
4	活動指標							
	成果指標							
5	活動指標							
	成果指標							
6	活動指標							
	成果指標							
7	活動指標							
	成果指標							
8	活動指標							
	成果指標							
9	活動指標							
	成果指標							
10	活動指標							
	成果指標							

平成27年度 刈谷市小施策評価シート（案）

他市町村との比較検証	比較項目	優良再開発型優良建築物等整備事業の実施地区				単位	地区
	刈谷市	岡崎市	豊田市	東海市	豊橋市	北名古屋市	
	3	1	1	1	7	2	
	備考	優良再開発型優良建築物等整備事業：市街地環境の整備、市街地住宅の供給等を総合的に促進する国が示す補助制度であり、主として、市街地の再開発を目的とした事業である。 実施地区：県内における平成26年3月31日までの完了地区（※名古屋市29地区）					
	比較項目	増加人口（平成25年）				単位	人
	刈谷市	安城市	知立市	高浜市	碧南市		
	890	1,052	13	279	△371		
	備考	西三河5市における増加人口推移（人） ※各年1月～12月中					
		年	刈谷市	安城市	知立市	高浜市	碧南市
		平成20年	1,189	1,853	523	496	187
		平成21年	284	506	△497	362	△827
		平成22年	14	949	159	299	△229
		平成23年	587	954	844	515	△280
		平成24年	783	848	269	87	△496
		平成25年	890	1,052	13	279	△371
		H21～H25計	2,558	4,309	788	1,542	△2,203
	比較項目	市街化区域面積に対する住工混在の恐れがある用途地域（準工業地域）の割合				単位	%
	刈谷市	安城市	知立市	高浜市	碧南市		
7.3	5.0	5.3	32.4	18.4			
備考	準工業地域：主に軽工業の工場やサービス施設などが立地する地域である。この用途地域は、危険性、環境悪化の大きい工場のほかは、ほとんどが建てることのできることから、住宅と工場などが混在している。または、住工混在の恐れがある地域である。 各市：準工業地域面積（ha）／市街化区域面積（ha） ※平成24.3.31現在 刈谷市：171／2,347 安城市：107／2,154 知立市：58／1,080.8 高浜市：330／1,017.5 碧南市：390／2,117						
比較項目					単位		
刈谷市							
備考							
比較項目					単位		
刈谷市							
備考							
比較項目					単位		
刈谷市							
備考							

平成27年度 刈谷市小施策評価シート（案）

成果	
現状分析 と課題	
今後の 方向性	